

氏名	神 崎 寛 子		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2546 号		
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 28 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	Role of fibronectin in the adherence of <i>Staphylococcus aureus</i> to dermal tissue (黄色ブドウ球菌の真皮組織への接着におけるフィブロネクチン の役割)		
論文審査委員	教授 小熊 恵二	教授 大森 弘之	教授 新居 志郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 に cyclophosphamide を投与して作成した骨髄抑制マウスに fibronectin (FN) で処理した黄色ブドウ球菌(黄色ブ菌)を皮内接種し、時間ごとに病変部を生検し生菌数を測定した。菌接種後 6 時間後に FN 処接種群では対照群に比べて生菌数が少なかった。骨髄抑制マウスに金標識 FN を結合させた黄色ブ菌を接種し、時間ごとに生検し電子顕微鏡にて観察した。菌接種 5 分後では菌周囲に金粒子が多数認められているがこれは経時的に減少してくる。菌接種 5 分、1 時間後線維芽細胞との接着部位には金粒子は認められない。

第 2 に癬および癬腫症由来の黄色ブ菌と伝染性膿痂疹由来の黄色ブ菌を金標識 FN と 37°C, 1 時間反応させ電子顕微鏡で観察した。金粒子は癬および癬腫症由来株の周囲には多数認められたが伝染性膿痂疹由来株の周囲にはほとんど認められていない。

以上の所見より皮膚感染症における FN の関与は病変の侵襲性に関与しているものと考えた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は癬および癬腫症由来黄色ブドウ球菌と、伝染性膿痂疹由来黄色ブドウ球菌の、fibronectin への結合性、あるいは、マウスの皮内接種後の動向を観察することにより、

本菌により侵襲性の病変を形成するためには、菌が fibronectin を介して fibroblast 等の細胞に結合することが重要であることを示したものである。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。